

表1：入所者に適用される費用徴収基準月額

対象収入による階層区分	費用徴収基準月額	
	円	円
1	0	270,000
2	270,001	280,000
3	280,001	300,000
4	300,001	320,000
5	320,001	340,000
6	340,001	360,000
7	360,001	380,000
8	380,001	400,000
9	400,001	420,000
10	420,001	440,000
11	440,001	460,000
12	460,001	480,000
13	480,001	500,000
14	500,001	520,000
15	520,001	540,000
16	540,001	560,000
17	560,001	580,000
18	580,001	600,000
19	600,001	640,000
20	640,001	680,000

対象収入による階層区分		費用徴収基準月額
21	680,001	720,000
22	720,001	760,000
23	760,001	800,000
24	800,001	840,000
25	840,001	880,000
26	880,001	920,000
27	920,001	960,000
28	960,001	1,000,000
29	1,000,001	1,040,000
30	1,040,001	1,080,000
31	1,080,001	1,120,000
32	1,120,001	1,160,000
33	1,160,001	1,200,000
34	1,200,001	1,260,000
35	1,260,001	1,320,000
36	1,320,001	1,380,000
37	1,380,001	1,440,000
38	1,440,001	1,500,000
39	1,500,001円以上	

150万円超過額×0.9÷12月+81,100円(100円未満切捨て)

1. 対象収入とは、前年の収入から租税、社会保険料、医療費などの必要経費を控除した後の収入をいいます。
2. 3人部屋以上の多床室の場合は、費用徴収基準月額が、減額になる場合があります。
3. 費用徴収月額が、その月におけるその入所者に係る措置費の支弁額を超える場合にはこの表にかかわらず、当該支弁額とします。
4. 月の途中で入所し、又は退所したときは、日割り計算になります。

表2：扶養義務者費用徴収基準月額

税額等による階層区分		費用徴収基準月額
A	生活保護法による被保護者(単給を含む。)	0円
B	A階層を除き当該年度分の市町村民税非課税の者	0円
C ₁	A階層及びB階層を除き、前年分の所得	当該年度分の市町村民税所得割非課税(均等割のみ課税)
C ₂	税非課税の者	当該年度分の市町村民税所得割課税
D ₁	A階層及びB階層を除き、前年分の所得税課税の者であって、その税額の年額区分が次の額であるもの	30,000円以下
D ₂		30,001～80,000円
D ₃		80,001～140,000円
D ₄		140,001～280,000円
D ₅		280,001～500,000円
D ₆		500,001～800,000円
D ₇		800,001～1,160,000円
D ₈		1,160,001～1,650,000円
D ₉		1,650,001～2,260,000円
D ₁₀		2,260,001～3,000,000円
D ₁₁		3,000,001～3,960,000円
D ₁₂		3,960,001～5,030,000円
D ₁₃		5,030,001～6,270,000円
D ₁₄		6,270,001円以上

その月におけるその被措置者に係る措置費の支弁額